

筆者は、四十年近く書を習っている。さぞ熱心な書道愛好家だと誤解されそうだが、実は違う。そもそも、自ら望んで書塾の門をたたいたわけではない。父の友人だった書道の先生が、我が家の空き部屋で教室を始めたため、お習字を始めざるを得なかったのだ。ただ、そんな環境だったので、それまで空欄だった特技欄に、書道と記入できる程度にはなった。やがて、筆者が高校生になると、その先生が自宅を改装し、そこに書塾を移した。すると、「我が家が書塾」という環境から解放された。次第に稽古から足が遠のくようになった。

教職に就き数年、街でばったり師匠に出くわした。「教員生活にも慣れただろうから、また書道を始めないか？」と声を掛けられた。「そうですわね。ぜひ。」と社交辞令のつもりで返答した。それから一月ほど経つと、「いつになったら稽古に来るんだ？」と、師匠が電話を掛けてきた。その勢いに気圧され、「来月から伺います。」と思わず口走ってしまっただ。以来、ずるずると書道から足を洗えずにいる。

再び書の世界に足を踏み入れ、「指導される側」になると、同じ立場の子どもに共感できることが多いことに気づいた。大人でもほめられれば、やはりうれしい。展覧会出品な

どの具体的な目標があれば頑張れる。一生懸命取り組んでいるのに、思うように筆が動かないとイライラする。時には気乗りせず、稽古を休みたくなる。その度に、「子どももこんな気分になるだろうなあ。」と思いを巡らせた。もちろん、仕事でも同様の感情を味わうだろうが、本質が異なる。仕事には報酬が伴うが、学びにはそれが無い。子どもの健全な発達には、周りの大人の共感的理解が欠かせない。ところが、子どもの心理は複雑怪奇。大人目線ではどうして理解できないことも多い。自ら指導の受け手になれば、そんな子どもの気持ちの一端を味わうこともできる。

とは言え、仕事や子育てに追われる大人が習い事をするのは、かなり厳しい。ものによっては経済的な負担も生じる。しかし、時間や金をやりくりしてまで、仕事以外でも努力する姿を見せられれば、「親も頑張っている。私も。」と、逆に、子どもが親に共感することすらあるかもしれない。これは、ちよつと期待しすぎか？

世は生涯学習時代。自分自身の成長のためにも、我々大人も何か学びませんか。

「しよつちゆう稽古をサボるくせに、偉そうなことを言うな！」師匠のお説教が聞こえそうだし。

連載・青少年健全育成シリーズ 第291回

「大人も学ぼう」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄